

## 平成19年3月期 中間決算関連補足資料

I. 連結財務ハイライト	1
II. 連結損益計算書	3
III. 連結貸借対照表	7
IV. 連単倍率、連結子会社、従業員数、MR数	8
V. 個別財務ハイライト	9
VI. 株式の状況	10
VII. 開発状況表	11
VIII. 主な開発品のプロフィール	15

平成18年11月8日

## 大日本住友製薬株式会社

- 本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しています。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料の数字は四捨五入で表示しています。四捨五入のため、合計数字に差異が生じる場合があります。
- 平成17年9月中間期は旧大日本製薬の数字です。「単純合算」で表示している数字は、平成17年9月中間期、平成18年3月期の数字に、平成17年9月期の旧住友製薬の数字を単純合算しています。

## I. 連結財務ハイライト

### 1. 損益計算書項目 (億円)

	平成17年	平成18年9月中間期		平成18年	平成19年3月期	
	9月中間期		増減率%	3月期	予想	増減率%
売上高	847	1,269	49.8	2,458	2,600	5.8
売上原価	496	481	△ 3.1	1,304	1,000	△ 23.3
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	262 (78)	584 (207)	123.3 (164.8)	865 (296)	1,180 (420)	36.5 (41.7)
営業利益	90	205	127.7	289	420	45.4
経常利益	85	196	130.8	272	405	48.7
中間(当期)純利益	40	95	137.1	154	220	43.1

\*売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

1株当たり当期純利益(円)	54.57	55.34
自己資本当期純利益率(ROE)	7.3%	7.4%

### (参考)単純合算による比較

(億円)

	平成17年	平成18年9月中間期		平成18年	平成19年3月期	
	9月中間期		増減率%	3月期	予想	増減率%
売上高	1,572	1,269	△ 19.2	3,182	2,600	△ 18.3
売上原価	713	481	△ 32.5	1,521	1,000	△ 34.3
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	611 (200)	584 (207)	△ 4.5 (3.4)	1,214 (418)	1,180 (420)	△ 2.8 (0.4)
営業利益	248	205	△ 17.4	447	420	△ 6.0
経常利益	234	196	△ 16.6	422	405	△ 4.0
中間(当期)純利益	139	95	△ 31.8	253	220	△ 12.9

\*売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

### 2. 貸借対照表項目

(億円)

	平成17年 9月末	平成18年 3月末	平成18年 9月末	前期末との 増減額
総資産	2,026	3,930	3,649	△ 281
純資産	1,412	2,886	2,951	64
自己資本	1,404	2,878	2,942	64

自己資本比率 69.3% 73.2% 80.6%

(注)過年度の実績については当期の表示区分に組み替えております。

## 3. 設備投資及び減価償却費の状況

(億円)

	平成17年 9月中間期	平成18年 9月中間期	増減額	平成18年 3月期	平成19年 3月期(予)
設備投資額(無形固定資産を含む)	18	50	32	66	120
減価償却実施額	22	55	32	86	120

## ・平成19年3月期の主な設備投資

鈴鹿工場 新固形製剤棟の建設 2億円(総予算 100億円、平成19年10月竣工予定)

合併関連システム統合 30億円(総予算 35億円、平成19年4月稼働対応分)

## 4. キャッシュ・フロー計算書項目

(億円)

	平成17年 9月中間期	平成18年 9月中間期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	51	226	175
投資活動によるキャッシュ・フロー	4	△ 109	△ 113
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 11	△ 46	△ 34
現金及び現金同等物の中間期末残高	426	784	358

## II. 連結損益計算書

### 1. 損益計算書

(億円)

	平成17年 9月中間期	平成18年 9月中間期	増減額	
売上高	847	1,269	422	・合併により事業の規模が拡大
売上原価	496	481	△ 15	
売上総利益	351	789	437	
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	262 (78)	584 (207)	322 (129)	
営業利益	90	205	115	
営業外収益	6	11	5	
営業外費用	12	20	8	
経常利益	85	196	111	
特別利益	8	—	△ 8	
厚生年金基金代行部分返上益	8	—	△ 8	
特別損失	23	35	13	
特別退職金	—	29	29	
退職給付制度改定に伴う損失	—	6	6	
合併関連費用	21	—	△ 21	
事業整理に伴う損失	2	—	△ 2	
税金等調整前中間純利益	70	160	90	
法人税、住民税及び事業税	25	50	25	
法人税等調整額	5	15	10	
少数株主利益	0	0	△ 0	
中間純利益	40	95	55	

\* 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

(参考)単純合算による比較

(億円)

	平成17年 9月中間期	平成18年 9月中間期	増減額	
売上高	1,572	1,269	△ 302	・アボットジャパン(株)等販売提携解消による影響 ・工業所有権収入の減少 ・薬価改定の影響
売上原価	713	481	△ 232	・販売提携解消等により製品売上高比率が増加 売上原価率 45.4%(前中間期) → 37.9%(当中間期)
売上総利益	859	789	△ 70	
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	611 (200)	584 (207)	△ 27 (7)	・薬価改定の影響 ・工業所有権収入の減少
営業利益	248	205	△ 43	
営業外収益	10	11	1	
営業外費用	23	20	△ 3	
経常利益	234	196	△ 39	・人件費の減少 ・販売促進費の減少 等
特別利益	53	—	△ 53	
厚生年金基金代行部分返上益	8	—	△ 8	
事業譲渡関連益	45	—	△ 45	
特別損失	61	35	△ 26	
特別退職金	6	29	23	
退職給付制度改定に伴う損失	—	6	6	
合併関連費用	45	—	△ 45	
事業整理に伴う損失	10	—	△ 10	
税金等調整前中間純利益	226	160	△ 66	
法人税、住民税及び事業税	83	50	△ 33	
法人税等調整額	4	15	11	
少数株主利益	0	0	△ 0	
中間純利益	139	95	△ 44	

\* 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

## 2. 事業の種類別セグメント情報

(億円)

	平成17年9月中間期			平成18年9月中間期			平成18年3月期			平成19年3月期(予)		
	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計
売上高	598	249	847	1,003	266	1,269	1,926	532	2,458	2,045	555	2,600
営業利益	84	6	90	198	7	205	277	11	289			

### 3. 主要製品の販売状況

国内売上高

(リポート控除前、億円)

品 目 [薬 効]	平成17年9月 中間期	平成18年9月 中間期	平成18年3月期	平成19年3月期 予想
ア ム ロ ジ ン [高血圧症・狭心症治療薬]	281	287	568	580
ガ ス モ チ ン [消化管運動機能改善剤]	80	89	163	190
メ ロ ペ ン [カルバペネム系抗生物質製剤]	70	70	141	145
プ ロ レ ナ ー ル [末梢循環改善剤]	61	68	126	145
エ バ ス テ ル [持続性抗アレルギー剤]	47	43	113	110
ス ミ フ ェ ロ ン [天然型インターフェロン $\alpha$ 製剤]	30	32	60	65
グ ロ ウ ジ ェ ク ト [ヒト成長ホルモン製剤]	24	24	49	50
グ リ ミ ク ロ ン [経口血糖降下剤]	24	23	47	45
ド プ ス [ノルエピネフリン作動性 神経機能改善剤]	24	23	47	43
キ ュ バ ー ル [吸入ステロイド喘息治療剤]	19	23	42	54
タ ガ メ ッ ト [H <sub>2</sub> 受容体拮抗剤]	24	20	46	35
ア ル マ ー ル [高血圧症・狭心症・不整脈 治療剤]	19	18	37	33
エ ク セ グ ラ ン [抗てんかん剤]	18	18	36	35
ル ー ラ ン [抗精神病剤]	15	16	30	33
セ デ イ ー ル [セロトニン作動性抗不安薬]	16	15	31	28
ク ラ リ シ ッ ド [マクロライド系抗生物質製剤]	81	—	190	—
エンシュア・リキッド [経腸栄養剤]	71	—	138	—
シ ナ ジ ス [RSウイルス感染発症抑制剤]	4	—	120	—
セ ボ フ レ ン [全身吸入麻酔剤]	22	—	44	—
ロ ペ ミ ン [止瀉剤]	15	—	31	—

## 輸出高

(億円)

品目 [薬効]	平成17年9月 中間期	平成18年9月 中間期	平成18年3月期	平成19年3月期 予想
メロペネム [カルバペネム系抗生物質製剤]	80	79	129	144
モサプリド [消化管運動機能改善剤]	5	6	9	13
ゾニサミド [抗てんかん剤]	13	4	24	8
その他	2	3	6	7
輸出合計(単純合算)	100	92	168	172

## 工業所有権収入

(億円)

	平成17年9月 中間期	平成18年9月 中間期	平成18年3月期	平成19年3月期 予想
工業所有権収入(単純合算)	74	24	85	41

## 4. 販売費及び一般管理費

(億円)

	平成17年9月		平成18年9月		平成18年		平成19年	
	中間期	売上比%	中間期	売上比%	3月期	売上比%	3月期(予)	売上比%
売上高	847	100.0	1,269	100.0	2,458	100.0	2,600	100.0
人件費	88	—	162	—	257	—		
広告宣伝費	11	—	24	—	34	—		
販売促進費	18	—	47	—	67	—		
その他	67	—	145	—	210	—		
販売費・一般管理費	183	21.6	377	29.7	568	23.1	760	29.2
研究開発費	78	9.2	207	16.3	296	12.1	420	16.2
販売費及び一般管理費	262	30.9	584	46.0	865	35.2	1,180	45.4

(参考)単純合算

(億円)

	平成17年9月		平成18年9月		平成18年		平成19年	
	中間期	売上比%	中間期	売上比%	3月期	売上比%	3月期(予)	売上比%
売上高	1,572	100.0	1,269	100.0	3,182	100.0	2,600	100.0
販売費・一般管理費	411	26.2	377	29.7	796	25.0	760	29.2
研究開発費	200	12.7	207	16.3	418	13.1	420	16.2
販売費及び一般管理費	611	38.9	584	46.0	1,214	38.2	1,180	45.4

### Ⅲ. 連結貸借対照表

[資産の部]

(億円)

科 目	前中間期末	前期末	当中間期末	対前期末
	平成17年 9月30日	平成18年 3月31日	平成18年 9月30日	増減
[ 資 産 の 部 ]	2,026	3,930	3,649	△ 281
(流動資産)	1,295	2,497	2,193	△ 304
現金及び預金	406	603	554	△ 49
受取手形及び売掛金	573	1,145	811	△ 334
有価証券	41	140	250	110
たな卸資産	192	441	434	△ 7
繰延税金資産	45	111	105	△ 6
その他	39	58	40	△ 18
貸倒引当金	△ 1	△ 1	△ 2	△ 1
(固定資産)	731	1,432	1,456	24
有形固定資産	320	683	678	△ 5
建物及び構築物	200	377	383	6
機械装置及び運搬具	53	141	126	△ 16
土地	45	100	100	-
建設仮勘定	1	16	21	5
その他	20	49	48	△ 1
無形固定資産	28	60	58	△ 1
投資その他の資産	383	689	720	31
投資有価証券	331	489	498	9
繰延税金資産	0	4	0	△ 3
その他	56	201	225	25
貸倒引当金	△ 4	△ 4	△ 3	1
資産合計	2,026	3,930	3,649	△ 281

・アボットジャパン㈱等の販売提携解消による影響や回収期間の短縮

・運用手段の多様化  
CP、長期性預金へ振替

	平成17年9月 中間期	平成18年3月期	平成18年9月 中間期
売上債権滞留月数	4.06ヵ月	4.27ヵ月	3.84ヵ月

[負債及び純資産の部]

(億円)

科 目	前中間期末 平成17年 9月30日	前期末 平成18年 3月31日	当中間期末 平成18年 9月30日	対前期末 増減
[ 負 債 の 部 ]	614	1,043	698	△ 345
(流動負債)	450	801	509	△ 292
支払手形及び買掛金	284	387	155	△ 232
未払法人税等	26	84	67	△ 17
賞与引当金	39	81	73	△ 8
返品調整引当金	1	1	1	0
売上割戻引当金	5	6	4	△ 2
そ の 他	94	242	209	△ 33
(固定負債)	165	243	190	△ 53
長期借入金	70	53	46	△ 7
繰延税金負債	31	-	4	4
退職給付引当金	53	141	80	△ 61
役員退職慰労引当金	1	1	0	△ 0
そ の 他	11	48	59	11
[ 純 資 産 の 部 ]	1,412	2,886	2,951	64
(株主資本)	1,297	2,704	2,770	66
資 本 金	134	224	224	-
資 本 剰 余 金	159	159	159	0
利 益 剰 余 金	1,040	2,325	2,391	67
自 己 株 式	△ 36	△ 3	△ 4	△ 1
(評価・換算差額等)	107	173	172	△ 2
その他有価証券評価差額金	107	173	172	△ 2
(少数株主持分)	8	9	9	0
負債及び純資産合計	2,026	3,930	3,649	△ 281

・アボットジャパン(株)等販売提携  
解消による影響他

・短期借入金の返済

(注)過年度の実績については当期の表示区分に組み替えております。

IV. 連単倍率、連結子会社、従業員数、MR数

1. 平成18年9月中間期 連単倍率

(億円)

	連 結	個 別	差 額	倍 率(倍)
売 上 高	1,269	1,204	65	1.05
営 業 利 益	205	203	1	1.01
経 常 利 益	196	194	1	1.01
中 間 純 利 益	95	94	0	1.00

2. 連結子会社の状況（平成18年9月30日現在）

	設立年月日	資本金	持株比率
五協産業株式会社	昭和22年10月	100百万円	52.48%

3. 従業員数（平成18年9月30日現在）：連結・・・5,028人、個別・・・4,951人

4. MR数（平成18年9月30日現在）：1,530人…マネージャー除く、1,760人…マネージャー含む

V. 個別財務ハイライト

1. 損益計算書項目 (億円)

	平成17年	平成18年9月中間期		平成18年	平成19年3月期	
	9月中間期		増減率%	3月期	予想	増減率%
売上高	781	1,204	54.2	2,326	2,470	6.2
売上原価	438	424	△ 3.4	1,190	887	△ 25.4
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	253 (78)	577 (207)	127.7 (164.0)	850 (297)	1,166 (420)	37.2 (41.6)
営業利益	89	203	128.8	286	417	45.8
経常利益	84	194	130.7	270	402	48.7
中間(当期)純利益	41	94	133.1	154	219	42.3

\*売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

1株当たり当期純利益(円)	54.63	55.09
自己資本当期純利益率(ROE)	7.4%	7.4%
配当性向	22.0%	25.4%

2. 貸借対照表項目 (億円)

	平成17年	平成18年	平成18年	増減額
	9月末	3月末	9月末	
総資産	1,972	3,874	3,589	△ 286
純資産	1,393	2,869	2,932	64
自己資本	1,393	2,869	2,932	64

自己資本比率 70.6% 74.0% 81.7%

(注)過年度の実績については当期の表示区分に組み替えております。

Ⅵ. 株式の状況（平成18年9月30日現在）

1. 発行可能株式総数 1,500,000,000株

2. 発行済株式の総数 397,900,154株

3. 株主数 15,094名

4. 大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
	千株	%
住 友 化 学 株 式 会 社	199,434	50.12
稲 畑 産 業 株 式 会 社	33,282	8.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 ( 信 託 口 )	18,771	4.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 ( 信 託 口 )	11,127	2.80
日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	10,530	2.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	7,000	1.76
ジエーピーモルガンチエース シーアールイー エフ ジヤスデツク レンディング アカウント	5,983	1.50
住 友 生 命 保 険 相 互 会 社	5,776	1.45
ニッセイ同和損害保険株式会社	4,928	1.24
ド イ ツ 証 券 株 式 会 社	3,346	0.84

VII. 開発状況表

・ 国内で開発中の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症等	備考
承認	SMP-536 注射剤	アガルシダーゼアル ファ agalsidase alfa	ファブリー病治療剤	Shire 社(旧 Transkaryotic Therapies 社)からの導入 品
申請中	AD-5423 経口剤	ブロナンセリン blonanserin	統合失調症治療剤	自社開発品
申請中 新効能	AD-810N 経口剤	ゾニサミド zonisamide	適応症追加 (パーキンソン病)	自社開発品 別銘柄申請 既承認適応症:てんかん (製品名:エクセグラン)
申請中 新投与経路	エフェドリン「ナ ガキ」 EPHEDRINE NAGAI 注射剤	塩酸エフェドリン ephedrine hydrochloride	静脈内投与 適応症:麻酔管理時 の血圧降下	既承認投与経路は皮下 投与 3社共同申請

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症等	備考
第Ⅲ相	経口剤	イルベサルタン Irbesartan	高血圧症治療剤	sanofi-aventis 社起源。ブ リストル・マイヤーズ(株)より サブライセンス。塩野義 製薬(株)と国内共同開発
第Ⅲ相 新効能	スミフェロン SUMIFERON 注射剤	インターフェロンア ルファ (NAMALWA) interferon- $\alpha$ (NAMALWA)	適応症追加(肝硬 変)	GlaxoSmithKline 社からの 導入品 既承認適応症:C型慢性 肝炎、腎癌 他
	メロペン MEROPEN (SM-7338) 注射剤	メロペネム三水和物 meropenem trihydrate	適応症追加 (発熱性好中球減少 症)	自社開発品 既承認適応症:種々の細 菌による中等度以上の感 染症

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症等	備考
第Ⅱ相	AS-3201 経口剤	ラニレスタット ranirestat	糖尿病合併症治療 剤	自社開発品 杏林製薬(株)との共同開発
	SM-11355 注射剤	ミリプラチン水和物 miriplatin hydrate	肝細胞癌治療剤	自社開発品
	SM-13496 経口剤	ルラシドン lurasidone	統合失調症治療剤	自社開発品
	SMP-114 経口剤	未定	関節リウマチ治療剤	自社開発品
	SMP-508 経口剤	レパグリニド repaglinide	糖尿病治療剤	Novo Nordisk 社からの導 入品
	SMP-862 経口剤	塩酸メトホルミン metformin hydrochloride	糖尿病治療剤	Merck Sante 社からの導 入品
	AC-5216 経口剤	未定	不安・うつ病治療剤	自社開発品
	プロレナール PRORENAL 経口剤	リマプロスト アルファデクス limaprost alfadex	適応症追加 (頷椎症)	小野薬品工業(株)との共同 開発 既承認適応症:閉塞性血 栓血管炎、腰部脊柱管狭 窄症による諸症状

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症等	備考
第Ⅰ相	AC-3933 経口剤	未定	認知症治療剤	自社開発品

【平成19年3月期第1四半期決算発表時点からの主な変更点】

SMP-536 イルベサルタン ガスモチン適応症追加（胃切除後症候群） SMP-797	申請中から承認に変更 第Ⅲ相に新規掲載 開発中止のため削除 開発中止のため削除
--	--



・ 海外導出品の開発状況

一般名／コード名 (日本での販売名)	薬効分類	開発状況
AC-5216	不安・うつ病治療剤	2002年2月、Novartis社に日本、韓国、台湾、中国を除く全世界の開発・販売権をライセンス 同社が米国・カナダで前期第Ⅱ相試験実施中
AG-7352	抗癌剤	2003年10月、Sunesis社に全世界の独占的開発権をライセンス、同社が第Ⅱ相試験実施中(同社開発コード:SNS-595)
SMP-601	重症感染症治療剤	2005年5月、Protez Pharmaceuticals社へ欧米での開発・販売権をライセンス 同社がスイスで第Ⅰ相試験を実施中
ルラシドン SM-13496	統合失調症治療剤	2005年6月、Merck社に日本、韓国、台湾、中国を除く全世界の開発・販売権をライセンス 同社が米国で臨床試験実施中
塩酸アムルピシン (カルセド)	抗癌剤	2005年6月、Cabrellis社(旧 Conforma社)へ欧米での開発・販売権をライセンス 同社が欧米で第Ⅱ相試験を実施中
ラニレスタット AS-3201	糖尿病合併症治療剤	2005年9月エーザイ(株)に日本を除く全世界の開発・販売権をライセンス 当社が現在実施中の米国・カナダでの第Ⅲ相試験以降の開発をエーザイ(株)が引き継ぐ

【平成19年3月期第1四半期決算発表時点からの主な変更点】

SMP-601                      Protez Pharmaceuticals社がスイスで第Ⅰ相試験を開始

## VIII. 主な開発品のプロフィール

### SMP-536 (アガルシダーゼアルファ) ファブリー病治療剤

- ・ Shire 社 (旧 Transkaryotic Therapies 社) から導入
- ・ 本剤は、ヒト線維芽肉腫細胞株により産生された水解酵素  $\alpha$ -ガラクトシダーゼ A の製剤であり、ファブリー病に対する酵素補充療法剤として、ファブリー病の症状を改善する。
- ・ 開発段階：承認 (国内)

### AD-5423 (プロナンセリン) 統合失調症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 臨床試験においてドーパミン-2 受容体およびセロトニン-2 受容体の遮断作用を有しており、統合失調症の陽性症状 (幻覚、妄想など) のみならず、陰性症状 (感情の平板化、意欲低下など) に対する改善効果が示された。また、類薬に比べ錐体外路症状や体重増加等の副作用が少ないことも示された。
- ・ 開発段階：申請中 (国内)、フェーズ II (欧州・米国)

### AD-810N (ゾニサミド) パーキンソン病 (適応症追加)

- ・ 自社開発品
- ・ 1989 年 6 月、抗てんかん剤として発売 (製品名「エクセگران」)。ドーパミン受容体作用薬に代表される従来の抗パーキンソン病薬と異なるメカニズムでパーキンソン病の症状を改善すると考えられる。
- ・ 開発段階：申請中 (国内)

### イルベサルタン 高血圧症治療剤

- ・ sanofi-aventis 社起源、ブリストル・マイヤーズ(株)からサブライセンス、国内は塩野義製薬(株)と共同開発
- ・ 国内で 6 番目の ARB (アンジオテンシン II 受容体阻害剤)
- ・ 長期に安定した降圧効果を示す。腎、心保護作用を有する。欧米では上市済みであり、有効性および安全性について豊富なエビデンスが存在する。
- ・ 開発段階：フェーズ III (国内)

### AS-3201 (ラニレスタット) 糖尿病合併症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病合併症の一つである糖尿病性神経障害を改善する。同種薬剤に比べ、酵素阻害作用が強く、作用持続が長い。海外フェーズ II a 試験の結果、ヒト神経内への移行は良好で用量依存的に神経内ソルビトール、フルクトースの蓄積を阻害した。  
現在、糖尿病性神経障害に対して有用性を精査するための北米フェーズ III 試験を実施している。2005 年 9 月に海外の開発・販売権についてエーザイ(株)とライセンス契約を締結した。
- ・ 開発段階：フェーズ III (米国・カナダ)、フェーズ II (国内、杏林製薬(株)との共同開発)

### SM-11355 (ミリプラチン水和物) 肝細胞癌治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、脂溶性白金錯体で、リピオドールに懸濁して肝動注する。リピオドールを担体として用いることで、腫瘍部位に選択的に、かつ長時間徐放性に活性体を放出するので、全身性の副作用が軽減され強い抗腫瘍効果を発揮することが期待される。

- ・ 開発段階：フェーズⅡ（国内）

#### **SM-13496（ルラシドン） 統合失調症治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ 強力なドーパミン-2 受容体拮抗作用、セロトニン-2、-7、-1A 受容体拮抗作用を有しており、統合失調症に対して持続的な効果を示し、副作用面では、錐体外路系副作用や心臓系に対する作用や体重増加の副作用が少なく、優れた安全性を有すると期待される。2005年6月に韓国・台湾・中国を除く海外の開発・販売権について Merck 社とライセンス契約を締結した。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（国内）、Merck 社が臨床試験中（米国）

#### **SMP-114 関節リウマチ治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ 経口投与の新規DMARD（Disease Modifying Anti-Rheumatic Drug）であり、関節リウマチにおける慢性炎症、関節破壊、関節変形の進行を抑制することが期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（欧州）、フェーズⅡ（国内）

#### **SMP-508（レパグリニド） 糖尿病治療剤**

- ・ Novo Nordisk 社から導入
- ・ 本剤は、膵β細胞に作用してインスリンを分泌させるが、既存のSU剤に比し、インスリン分泌作用が速効性で短時間である速効型インスリン分泌促進剤である。2型糖尿病患者でみられる食後早期のインスリン分泌低下を、健常人のインスリン分泌動態に近づけることにより、食後血糖上昇が抑制され、空腹時血糖やHbA1cの低下が期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（国内）

#### **SMP-862（塩酸メトホルミン） 糖尿病治療剤**

- ・ Merck Sante 社から導入
- ・ 本剤は、インスリン分泌促進を伴わず、インスリン抵抗性等を改善して血糖降下作用を示す特長を持つ塩酸メトホルミン製剤である。当社は、1961年に塩酸メトホルミンを含有する「メルビン錠」を日本で最初に自社開発・販売しているが、近年の作用メカニズムの解明や欧米の大規模試験での臨床知見の蓄積を受け、更に日本人でのEBMに資する治療情報を提供することが重要であると考え、本剤にて現在の新薬承認基準に適合したデータを再整備し、適切な効能効果、用法用量の新規取得を目指している。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（国内）

#### **AC-5216 不安・うつ病治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ ミトコンドリア型ベンゾジアゼピン受容体にアゴニストとして作用することによりニューロステロイドの生成を促し、それがGABA<sub>A</sub>受容体等に作用するという新しいメカニズムに基づく抗不安、抗うつ剤。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（国内）、Novartis 社がフェーズⅡ（米国・カナダ）

#### **AC-3933 認知症治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ ベンゾジアゼピン受容体にパーシャルインバースアゴニストとして作用する。アセチルコリンエステラーゼ阻害剤とは異なり、アセチルコリン遊離促進によりアセチルコリン神経系を賦活するとともに、グルタミン酸神経系を賦活する作用も有し、認知症の中核症状である記憶障害の改善が期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（米国）、フェーズⅠ（国内）

#### **SMP－986 過活動膀胱治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、ムスカリン受容体に対する拮抗作用に加え、過活動膀胱における膀胱から中枢への異常な情報伝達を抑制する作用を有することで、結果として1回あたりの排尿量を増加させ、排尿、尿意切迫感および尿失禁の回数を減少させ、また、ムスカリン-3拮抗作用に由来する副作用（口渇）との分離も期待できる。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（欧州・米国）

#### **SMP－028 気管支喘息治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は気管支喘息の病態形成に関与する主要な炎症細胞に幅広い抑制作用を示す。強い抗炎症作用を有する新規メカニズムの喘息治療剤になることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズⅠ（米国）

以 上